

日中緑化
交流基金

広西柳州地区水土流失 防止林プロジェクト参加



題字・鳩山威一郎

植林予定地の紅水河



日中友好のために祈りをこめて



植林をする日中代表者

「小涓基金」による助成事業の取り組み

中国では多角的な植林緑化の取り組みがなされていますが、一方、わが国からも日本政府による対中国支援のほか、NGO等による中国での植林緑化協力の取り組みが行われてきました。平成12年、日中緑化交流基金は、日中民間緑化協力委員会資金より「小涓基金」により、わが国の民間団体等が中国において中国側のボランティアとともに共同して行う植林緑化活動、具体的には、中国の植林緑化政策に適合する長江・黄河流域などにわたる23の案件に対し助成することになりました。そして、今回第一回目の植林緑化運動を日中双方企画のもと、柳州地区来賓で行ったのです。

平成13年1月16日(月) 7時30分羽田を飛び立つて訪問地柳州空港に降り立ったのが、すでに23時をまわっていた。それにも関わらず大勢の方々(熱烈歓迎)と書かれた大きな赤い旗を掲げ、私たち一行を出迎えてくれた。

翌1月16日(火) 8:30~11:40 来賓県城柳都植林現場へバスで移動(1.5回)

小中学生、公務員、青年連盟、などからなる総勢2000人程が集まっていた。貴州から流れくる紅水河(母なる河と呼ばれる)を見渡す丘で雨が降り始めた中でセレモニーが開催された。司会者から「大事な客がある時に降るのは恵みの雨である。21世紀の初めにあたり紅水河ほとりに、日中青年が会し、河を守る事業に参加する」とい

平成13年1月16日(火) 8:30~11:40 来賓県城柳都植林現場へバスで移動(1.5回)

小中学生、公務員、青年連盟、などからなる総勢2000人程が集まっていた。貴州から流れくる紅水河(母なる河と呼ばれる)を見渡す丘で雨が降り始めた中でセレモニーが開催された。司会者から「大事な客がある時に降るのは恵みの雨である。21世紀の初めにあたり紅水河ほとりに、日中青年が会し、河を守る事業に参加する」とい

平成13年1月16日(火) 8:30~11:40 来賓県城柳都植林現場へバスで移動(1.5回)

小中学生、公務員、青年連盟、などからなる総勢2000人程が集まっていた。貴州から流れくる紅水河(母なる河と呼ばれる)を見渡す丘で雨が降り始めた中でセレモニーが開催された。司会者から「大事な客がある時に降るのは恵みの雨である。21世紀の初めにあたり紅水河ほとりに、日中青年が会し、河を守る事業に参加する」とい

平成13年1月16日(火) 8:30~11:40 来賓県城柳都植林現場へバスで移動(1.5回)

機関紙「友愛」
発行所
財団法人友愛青年協会
〒112-0002 東京都文京区小石川1-10-13
松本ビル2F
TEL 03-5684-3188
FAX 03-5684-3186
発行人: 川手正一郎
編集人: 長田正太郎
隔月1回 10日発行
購読料
年額 3,000円



雑交竹



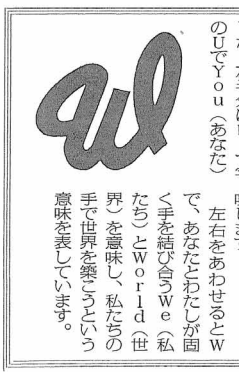
友愛精神にのっとり、挨拶をする川手団長

来賓県人民政府副長陳平氏
八、記念旗贈呈
柳州地区人民代表大会副
主任張曉東氏から訪問団
長川手正一郎氏に手渡され
た。
九、除幕式
日本大使館一等書記官北
林英一氏、柳州地区行政
署副署長郭弘輝氏、広西チ
ワン族自治区青年連合会副
主席 全桂寿氏訪問団副
主席 川手正一郎
現地中国青年と日本青年が
グループになり雑交竹を植
えた。言葉は通じなくても
植林活動には国境がないこ
とを痛感した。
歓迎レセプション
12:30~14:30
ミョオ族の舞踏での出迎
えを受ける。日本側は日本
歌謡、友愛の歌、剣玉を披
露した。また日本から持参
した樽酒を振る舞ったり、
和やかなうちに終る。
来賓県職業高等学校見學
学校内見學、先生との懇談
14:30~15:30
さとうきび産地なので研
究開発が盛ん。学校で栽培
し、自由市場へ販売。校長
より歓迎の挨拶。18:00

来賓県庁舎で臨会議中
中国青年との懇談会(意交
換)
15:30~17:30
中国側からの出席者は、
経済、教育、林業、衛生な
どの分野のプロフェッショ
ナル。
中国の環境教育、青少年
の道德観念等広範囲に渡
って意見交換が行われた。最
後に司会者からまとめとし
て「互いに交流をするとき、
壁、溝がある。それを開き、
手をつなぐ。心を開き、手
を結ぶことで溝は埋められ
ると思う。知り合うことで
理解し、協力することで友
好関係を築き、それが両国
の発展へとつながる。朝
から植樹から、座談会を含
め、本日の交流のスタート
になればよいと考え。千
里の道も一歩からというこ
とわざにあるように未来へ
の基盤になることを願う。
過去は青年のもの。現在、

来賓県庁舎で臨会議中
中国青年との懇談会(意交
換)
15:30~17:30
中国側からの出席者は、
経済、教育、林業、衛生な
どの分野のプロフェッショ
ナル。
中国の環境教育、青少年
の道德観念等広範囲に渡
って意見交換が行われた。最
後に司会者からまとめとし
て「互いに交流をするとき、
壁、溝がある。それを開き、
手をつなぐ。心を開き、手
を結ぶことで溝は埋められ
ると思う。知り合うことで
理解し、協力することで友
好関係を築き、それが両国
の発展へとつながる。朝
から植樹から、座談会を含
め、本日の交流のスタート
になればよいと考え。千
里の道も一歩からというこ
とわざにあるように未来へ
の基盤になることを願う。
過去は青年のもの。現在、

来賓県庁舎で臨会議中
中国青年との懇談会(意交
換)
15:30~17:30
中国側からの出席者は、
経済、教育、林業、衛生な
どの分野のプロフェッショ
ナル。
中国の環境教育、青少年
の道德観念等広範囲に渡
って意見交換が行われた。最
後に司会者からまとめとし
て「互いに交流をするとき、
壁、溝がある。それを開き、
手をつなぐ。心を開き、手
を結ぶことで溝は埋められ
ると思う。知り合うことで
理解し、協力することで友
好関係を築き、それが両国
の発展へとつながる。朝
から植樹から、座談会を含
め、本日の交流のスタート
になればよいと考え。千
里の道も一歩からというこ
とわざにあるように未来へ
の基盤になることを願う。
過去は青年のもの。現在、



地域振興に大いに役立っ
た。事業は、自然人間、
後世へのやさしさであり、
それを掲げる友愛三原則の
理念に感動。幅広い年齢層
からの参加は、私どもの、
勉強、励みとなった。他
人から少しの恩恵を受ける
と、百倍にして返すべきと
いうことわざがある。その
方法として、緑化事業を
はらうものにする。また
地域青年を教育し、環境
教育を施した。地域の人
事を重視している。道中
の無事、健勝を祈る。
川手団長より、「3日間
を通し、皆真心を理解し
た。植林を通し、友愛日中
友好の心を伝えた。緑に
よる環境改善すること
が、友好の第一の目的だ
と考える。中国側の真心
をみながかりと受け止め
た。今後ががんばる。
今回の交流は、すうとあ
うだったかもしれない
が、竹の成長と共に育つ
中、青年の将来が楽しみ
である」と述べた。この訪
問で数々の団長の挨拶を
聞いて、脈々と友愛精神が
流れていることを参加青
年たちは感じた。またこの訪
問で、友愛の訪中による緑
化の事業を同時に知ること
が出来、友愛精神を受け継
がれていく事を確信した。
このマークは、同志の
絆として用いられて来ま
した。左半分はローマ字
のUでYou(あなた)
右半分はw(わたし)を
意味します。右半分は
Iで、I(わたし)を意
味します。
左右をあわせるとW
であつたがわたしとが固
く手を結び合うWe(私
たち)とWorld(世
界)を意味し、私たちの
手と世界を繋ぐという
意味を表しています。



静和

